

秋季高校野球東北大会 Vの青森山田は「当確」

センバツどうなる光星

東北ナンパーワンの座を懸け、青森県の両雄がぶつかった。23日に秋田市で行われた秋季東北地区高校野球大会の決勝。共に前評判通りの実力を発揮して勝ち上がった八戸学院光星と青森山田が熱いライバル対決を繰り広げた。試合は先発投手がノーヒットノーランを達成した青森山田が勝利し、来春の選抜大会（センバツ）出場を「当確」させた。一方、東北地区のセンバツ出場枠は3に増え、上位2校に入った光星も選出が有力視される。史上2度目の青森県勢2校同時出場なるか。県高野連の関係者は「両校が選ばれてほしい」と期待を寄せる。

（取材班）

日本高野連は今年7月、来春のセンバツに関して各地区の一般選考枠を見直し、東北地区は1増の3に拡大。甲子園出場枠が広がった。

秋の東北大会決勝で光星と青森山田が顔を合わせたのは今回が3度目。最初は、青森山田の兜森崇朗監督が同校のエースとして活躍していた1996年だった。

結果は光星に軍配が上がり、青森山田は進優勝ながら「地域性」などを理由にセンバツ出場を逃した。

2度目の激突は2015年。この時は優勝した青森山田と光星と共に一般枠で選出された。青森県勢のセンバツ2校同時出場は史上初めてのことだった。

一方の光星は、投打に振るわず完敗を喫したものの、センバツ出場の有力校に変わりはない。選出されれば、夏春2季連続の甲子園出場となる。仲井宗基監

出場枠は「3」 県勢2校同時 関係者期待



決勝を戦い終え、整列してあいさつする八戸学院光星ナイン（右側）と青森山田ナイン＝23日、秋田市

督は「まだまだのチームだが、選んで頂ければ東北の代表としてふさわしい戦いをしたい」と力を込めた。両校の躍進に、県内の高校野球界も盛り上がりを見せつつある。関係者は「両校が選ばれてほしい」と期待を寄せる。